

令和7年度 学校法人 薬師の杜学園 役員名簿

役職	氏名	学外者
理事長	高橋 淑秀	○
業務執行理事	奥山 伸	○
業務執行理事	齊藤 隆道	○
理事	桑原 通夫	○
理事	荒木 茂	
理事	阿部 吉宏	
監事	鈴木 啓司	○
監事	志田 俊雄	○

令和7年度 山形美容専門学校 美容科 授業時間数

昼間課程 2年（衛生専門課程）

教科課目	単位	時間	実務経験者が指導
必修課目			
関係法規・制度	1	30	
衛生管理	3	90	○
保健	3	90	○
香粧品化学	2	60	○
文化論	2	60	○
美容技術理論	5	150	○
運営管理	1	30	
美容実習	30	900	○
計	47	1,410	
選択課目			
芸術	2	60	○
社会・福祉	2	60	○
総合技術 I	5	150	○
総合技術 II	11	330	○
計	20	600	
合計	67	2,010	
実務経験者による授業時間合計	65	1,875	

成績の分布状況

○令和6年度

客観的な指標の算出方法						
履修課目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する (100点満点で点数化)						
学科名:美容科		学年:1年		学生数:66人		
成績の分布						
指標の数値	～50点	50 ～60点	60 ～70点	70 ～80点	80 ～90点	～100点
人数	0	1	3	11	32	19
下位1/4に該当する人数 16人						
下位1/4に該当する指標の数値 80.0 点以下						

成績評価基準

判定	評価点	成績評価内容
合格	100～90点	到達目標を十分に達成し、非常にすぐれた成果をおさめている
	89～80点	到達目標を十分に達成している
	79～70点	到達目標を最低限達成している
不合格	69点以下	到達目標を達成していない

成績評価の基準・方法

■国家試験課題課目について

- ・関係法規・制度
- ・衛生管理
- ・保健
- ・化粧品化学
- ・文化論
- ・美容技術理論
- ・運営管理
- ・美容実習

〔評価の基準・方法〕

目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。
なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点以上を目標ラインとし、再試験を行う。

■その他の課目

- ・芸術
- ・社会・福祉
- ・総合技術Ⅰ
- ・総合技術Ⅱ

〔評価の基準・方法〕

履修状況、授業への取り組み、作品やレポート等の提出状況を総合的に判断し
100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。

授業計画

教科課目		関係法規・制度	学年	2	授業時数	30	担当者	渡辺幹子
実務経験の有無		無	授業方法	講義	単位数	1		
授業目標		美容師法に関する理解を深め、美容師国家試験合格を目標とする。						
授業内容		教科書・授業プリント・問題プリントを使用し、生徒自身が問題文を読めるように指導します。授業出席時は、教科書・プリント・鉛筆・蛍光ペンを準備してください。 暗記するまでは読みにくい漢字にはすべてひらがなを書き込んでもらいます。						
成績評価		目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1 学期	4	2	第1章 法制度の 第2章 衛生行政の概要 第3章 美容師法	法の形式、衛生法規、 衛生行政を担う行政機関、 美容師法の目的、用語の定義			美容師法の概要を説明する。 授業時間での学び方を覚える。	
	5	5	第3章 美容師法	美容師に関する規定 美容所に関する規定 立入検査と環境衛生監視員			内容を理解する。	
	6	3	第3章 美容師法	問題演習			国家試験過去問題を解くことで 暗記事項を確認する。	
	7	1	試験解説	自己採点(練習1)			解説後、自己採点。 その後、答案用紙返却。	
2 学期	8	1	第3章 美容師法	違反者等に対する行政処分 罰則			内容を理解する。	
	9	3	第4章 関連法規	衛生 業の振興 雇用、消費保護			内容を理解する。	
	10	5	参考資料 美容師法の構成	問題演習			国家試験過去問題を解くことで 暗記事項を確認する。	
	11	4	まとめ	授業プリントを使いこなす			暗記事項を意識しながら 復習する。	
	12	1	試験解説	自己採点(練習2)			解説後、自己採点。 その後、答案用紙返却。	
3 学期	1	4	総まとめ	問題演習			言えるか確認！をやりつつ 問題演習にも取り組む。	
	2	1	試験解説	自己採点(練習3)			解説後、自己採点。 その後、答案用紙返却。	
計		30						

令和7年度 授業計画

教科課目		衛生管理	学年	1	授業時数	45(2年次45)	担当者	鈴木青磁
実務経験の有無		有	授業方法	講義	単位数	3		
授業目標		美容師として必要な公衆衛生、環境衛生、感染症に関する基礎的な知識を習得する						
授業内容		美容師にとって衛生管理に関わる知識や技術は、業務遂行の基礎を支える大切な部分であり、丁寧な説明をもとに授業を展開しその知識等の習得を目指す						
成績評価		目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1 学期	4	4	公衆衛生の概要	公衆衛生の意義と課題、発展の歴史、消毒法の歴史、美容師と公衆衛生、保健所と美容師			健康を守る公衆衛生の理解とその歴史等の学習及び美容業に深く関連する保健所の機能と事業の把握を学ぶ	
	5	6	保健	母子保健、成人・高齢者保健			保健の概念と国が創設した公衆衛生制度について、それぞれの世代等の保健分野を主として学習する	
	6	4	〃	母子保健、成人・高齢者保健、精神保健				
	7	1	環境衛生 期末試験解説	環境衛生の概要、空気環境(空気と健康、温度・湿度・気流と健康)			環境が自然や人々の健康に及ぼす影響知り、美容師としての環境衛生の知識を学ぶ	
2 学期	9	6	環境衛生	衣服・住居の衛生、上・下水道と廃棄物、衛生害虫とネズミ、環境保全			人体に接する美容業では、感染症の知識を理解することが必須であり、微生物の特徴や法令などの基礎を学ぶ	
			感染症総論	人と感染症(感染症発見の歴史、感染症と法律)(感染症の分類)				
	10	6	〃	病原微生物(種類、形と大きさ、構造)(増殖と環境の影響) 感染症の予防(微生物の病原性と人体の感受性)			人体に接する美容業では、感染症の知識を理解することが必須であり、特に予防対策の重要性などを体系的に学ぶ	
	11	6	〃	感染症の予防(汚染、感染および発病)(常在細菌叢、免疫と予防接種)				
3 学期	1	6	感染症各論	美容と感染症、空気・飛沫を介して感染する感染症、飲食物を介して感染する感染症			特に重要なヒトヒト感染症を中心に、美容師として理解すべき感染症の症状、感染源、感染経路、予防対策などより具体的に学習する	
	2	5	〃	血液を介して感染する感染症、動物・節足動物を介して感染する感染症				
			感染症各論 学年末試験解説	具体的な対策の例				
計		45						

授業計画

教科課目		衛生管理	学年	2	授業時数	45(1年次45)	担当者	荒木茂
実務経験の有無		有	授業方法	講義	単位数	3		
授業目標		美容の業に携わる者は、客や美容師自らを感染から守ることが必要があり、法で規定された消毒法や原理、調整方法などを理解する。「理容所及び美容所における衛生管理要領」について、しっかり理解する。 「衛生管理」全般について、美容師国家試験に合格する知識を習得する。						
授業内容		美容所における消毒法について、法の規定、原理、特徴、調整方法などを学習することにより、美容師として法令を遵守し適切な消毒ができるよう知識を身につける。 「理容所及び美容所における衛生管理要領」について、具体的事例を交えて解説し学習する。 「公衆衛生・環境衛生」、「感染症」、「衛生管理技術」について、学習の総まとめを行う。						
成績評価		目標達成状況を学期ごとに試験し、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指すため、70点を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1学期	4	3	第1章 消毒法総論	- 消毒の意義 - 美容の業務と消毒との関係 - 消毒法と適用上の注意			消毒とは何か、消毒に関連する法令、消毒に必要な条件について学習する。	
	5	5	第2章 消毒法各論	- 理学的消毒法(紫外線、煮沸、蒸気消毒) - 化学的消毒法(アルコール、次亜塩素酸ナトリウム消毒)			美容師法施行規則第25条で定められた消毒法について、正確な知識を理解する。	
	6	6	第2章 消毒法各論	- 化学的消毒法(界面活性剤、グルコン酸クロルヘキシジン消毒) - すぐれた消毒法とその実施上の注意			美容師法施行規則第25条で定められた消毒法について、正確な知識を理解する。	
	7	1	1学期末試験 解説	1学期末試験の解説			1学期の学びが習得できたかを試験を通して知り、弱点克服の意識を身に付ける	
2学期	8	1	第3章 消毒法実習	- 消毒薬の概要 - 消毒薬の濃度の表し方 - 器具の使い方			消毒薬の溶質、溶媒、消毒薬の濃度の表し方、器具の使い方について学習する。	
	9	7	第3章 消毒法実習	- 消毒薬水溶液の調整法 - 消毒薬水溶液の特徴 - 美容所の消毒設備			消毒薬水溶液を調製する際の計算法、各消毒薬水溶液の特徴について学習する。	
	10	7	第3章 消毒法実習	- 美容器具類の消毒法 - 美容師の手指の消毒 - 美容所の清潔法の実践			「皮膚に接する器具」とは何かを学び、各美容器具に適した消毒法を身に付ける。	
	11	4	第5編 衛生管理の実践例	- 理容所及び理容所における衛生管理要領 - 美容所の自主管理点検表			法や規則で定めてある衛生管理について、「衛生管理要領」を用いて、具体的な事例を交え学習する。	
	12	1	2学期末試験解説	2学期末試験の解説			2学期の学びが習得できたかを試験を通じて知り、弱点克服の意識を身に付ける。	
3学期	1	6	衛生管理学習総まとめ	公衆衛生、環境衛生、感染症、衛生管理技術の学習内容を理解、習得する			練習問題などを解説することにより、2年間で学習した知識を整理し、国家試験の合格を目指す。	
	2	4	衛生管理学習総まとめ 卒業試験解説	公衆衛生、環境衛生、感染症、衛生管理技術の学習内容を理解、習得する 卒業試験の解説			練習問題、卒業試験などを解説することにより、2年間で学習した知識を整理し、国家試験の合格を目指す。	
計		45						

授業計画

教科課目			保健	学年	1	授業時数	40(2年次5)	担当者	安達純子
実務経験の有無			無	授業方法	講義	単位数	2		
授業目標			美容技術の基礎となる人体について科学的、系統的な知識の習得を目的とする また、美容の業務を安全かつ効果的に行うために、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる						
授業内容			・人体各部の名称並びに頭部、顔部、頸部の体表解剖学的特徴について理解させること ・美容の施術の際に使う骨格及び筋について種類、構造及び機能について理解させること ・人体(頭部、顔部及び頸部に限る)の骨格、筋の種類、構造、機能について理解させること ・人体(頭部、顔部及び頸部に限る)の神経機能の仕組みについて理解させること						
成績評価			目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容				ねらい・目標	
1 学期	4	3	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	・頭部、顔部、頸部の体表解剖学 ・人体各部の名称				美容師の日常業務において部位や名称、目印となる基準点等言葉を理解する。	
	5	5	第2章 骨角器系第 第3章 筋系	・骨の種類と構造 ・骨の連結 ・骨角器系とそのはたらき ・筋の種類とその特徴 ・主な骨格筋とそのはたらき				骨格と筋はデザインを施すうえで重要なため特に頭蓋骨と表情筋の仕組みを理解する。また、自律神経の支配を理解することで美容に結び付ける。	
	6	6	第4章 神経系	・表情筋と表情運動 ・神経系の成り立ち ・中枢神経とそのはたらき ・末梢神経系とそのはたらき				神経系に情報を送る機能があり美容師はその構造や機能をよく理解する。	
	7	1		期末試験解説				1学期の学びが習得できていたかを試験を通してしり、弱点克服の意識を身に付ける。	
2 学期	8	1	第5章 感覚器系	・視覚				情報を集める機関として五感の構造やはたらきを理解する。	
	9	4	第6章 血液と免疫	・味覚 ・臭覚 ・皮膚感覚 ・血液とあらし ・免疫のあらし ・アレルギー				血液中はたらきで、細菌やウイルスに対して免疫機構が関与やアレルギー反応について学ぶ。	
	10	5	第7章 循環器系 第8章 呼吸器系	・心臓のあらし ・血液循環の仕組み、経路 ・リンパ管系の仕組みとはたらき ・呼吸器系のあらし				心臓と血管を中心とする循環器の経路を理解する。 呼吸器のあらしと気道の仕組みを学ぶ。	
	11	4	第9章 消化器系	・気道 ・肺の仕組みとガス交換 ・呼吸運動 ・消化管のあらし、仕組み、はたらき ・消化管と物質代謝				消化に関与する頭蓋部の構造や機能を理解する	
	12	1		期末試験解説				2学期の学びが習得できていたかを試験を通してしり、弱点克服の意識を身に付ける。	
3 学期	1	5	第1章～第9章	各章ごと国家試験対策問題と解説				国家試験過去問題に取り組むことで理解度を確認する。 2年生までに期間があくため、要点を捉え弱点克服の意識を身に付ける。	
	2	5		各章ごと国家試験対策問題と解説 期末試験解説					
計		40							

令和7年度 授業計画

教科課目		保健(皮膚)	学年	2	授業時数	45(1年次45)	担当者	鈴木孝子
実務経験の有無		有	授業方法	講義	単位数	3		
授業目標		美容技術の基礎となる皮膚と皮膚付属器官の構造と機能についての知識を習得する。 美容の施術と関連付けた保健衛生と皮膚皮膚及び付属器官の疾患の知識を習得する。						
授業内容		美容の業務を安全かつ効率的に行うため、美容技術の基礎となる皮膚及び皮膚付属器官などの構造と機能について、美容技術と関連させながら知識を習得できるようにする。さらに、皮膚、皮膚付属器官の状態に影響を与える因子や健康に保つための方法、皮膚や皮膚付属器官の疾患に関して、香粧品および衛生管理と関連させながら知識を習得できるようにする。						
成績評価		目標達成状況を学期ごとに試験を行う。100点満点とし、70点に満たない場合は再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1 学期	4	4	第1章 皮膚の構造	・皮膚の表面 ・皮膚の断面 ・表皮 ・表皮と真皮の境 ・真皮			皮膚の構造が理解できる。	
	5	6	第1章 皮膚の構造 第2章 皮膚付属器官の構造	・皮下組織と皮下脂肪 ・皮膚の部位差 ・毛			皮膚の構造が理解できる。 毛の構造が理解できる。	
	6	6	第2章 皮膚付属器官の構造 第3章 皮膚の循環器系と神経系	・脂腺(皮脂腺) ・汗腺 ・爪 ・皮膚の血管 ・皮膚のリンパ管・皮膚の神経			脂腺・汗腺・爪の構造が理解できる。 皮膚の働きを保つための皮膚の血管・リンパ管・神経の構造と働きが理解できる。	
	7	1		期末試験解説			皮膚及び皮膚付属器官の構造について知識の習得状況を確認し、2学期(生理機能・保健・疾患)の学習につなげる。	
2 学期	8	1	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	・体外保護作用			体外保護作用が理解できる。	
	9	7	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	・体温調節作用 ・知覚作用と皮膚反射・分泌排泄作用 ・呼吸作用・吸収作用 ・貯蔵作用 ・免疫・解毒・排泄作用 ・再生作用 ・毛のはたらき ・爪のはたらき ・皮膚と全身状態・皮膚と精神・皮膚と栄養			生理的意義と特性について美容技術と関連させて理解できる。 ・皮膚・皮膚付属器官の状態に影響を与える因子を理解できる。	
	10	7	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	・皮膚と体内病変・皮膚の水分と脂の状態 ・皮膚と付属器官のホルモン・皮膚の保護と手入れ・毛の保護と手入れ・爪の保護と手入れ・子どものおしゃれによるトラブル ・皮膚の異常と病態・湿疹・皮膚炎			皮膚・皮膚付属器官、特に毛髪の保健衛生は美容技術の基礎技術であることを学習し、健康に保つための方法が理解できる。 美容で使用する香粧品などと関連して発生機序と予防方法が理解できる。	
	11	7	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	・蕁麻疹・薬疹・口唇の疾患・温熱・寒冷による皮膚障害・角化異常による皮膚障害・色素異常による皮膚障害・血管腫・脂腺母斑・下肢静脈瘤・分泌異常・化膿菌・ウイルス・真菌・衛生害虫・感染症の皮膚疾患の予防・毛と爪の疾患・皮膚の腫瘍			皮膚・皮膚付属器官の疾患の種類、原因、症状について美容技術と関連して理解できる。 皮膚、毛髪の保健衛生について、衛生管理と関連して理解できる。	
	12	1		期末試験解説			皮膚・皮膚付属器官の生理的機能、保健衛生、疾患についての知識の習得状況の確認をし、国家試験に向けた学習につなげる。	
3 学期	1	2		国家試験対策①②			国家試験に向けた知識の確認	
	2	3		国家試験対策③④⑤ ④は卒業試験の解説			皮膚科学の学習目的の習得状況を確認し、国家試験につなげる。	
計		45						

授業計画

教科科目		香粧品化学	学年	1	授業時数	30(2年次30)	担当者	齋藤明子
実務経験の有無		無	授業方法	講義	単位数	2		
授業目標		美容の業務で使用する香粧品について安全かつ適正に行えるよう成分、作用原理、使用上の注意について理解する。 香粧品化学について美容師の国家試験に合格する知識を習得する。						
授業内容		美容師に必要な香粧品(化粧品、医薬部外品)の成分や特徴、正しい使い方や保存方法学習し、法律遵守のもと、目的に応じた安全な使用方法を伝え、美容所で働いたときに活かせる知識を身につける。						
成績評価		目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1 学期	4	3	第1章 香粧品総論	・香粧品とは何か、美容の技術との関わりについて ・香粧品の効果 ・香粧品の基本的な使用プロセス			香粧品とは何か、美容の技術との関わりについて知る	
	5	2	第2章 香粧品を使用する際に 気を付けるべきこと	・香粧品によるトラブル ・化粧品と医薬部外品の定義 ・安全性、安定性			香粧品は肌や毛髪に対しトラブルをもたらすことがあることを知り、人体への安全性の大切さを知る。	
	6	4	第3章 香粧品の成り立ち ・水と親水性溶媒 ・油性原料	・水、アルコール、油脂、ロウ類、炭化水素等の種類と機能			水性・油性原料の種類と機能、特徴を項目別に知る	
	7	1		期末試験解説			1学期の学びが習得できたかを試験を通して知り、弱点克服の意識を身に付ける	
2 学期	8	1	第3章 香粧品の成り立ち ・界面活性剤	・界面活性剤の基本的性質			界面活性剤の性質を種類別に学び香粧品への応用を学ぶ	
	9	3	香粧品の成り立ち ・界面活性剤	・界面活性剤の種類 ・香粧品への応用				
	10	5	香粧品の成り立ち ・界面活性剤 ・色材	・色材と香粧品 ・無機顔料 ・有機合成色素(タール色素)			香粧品に不可欠である色材と香料の種類と特徴を知り、香粧品への応用を学ぶ	
	11	3	香粧品の成り立ち ・色材 ・香料	・光輝性顔料(パール色素) ・天然色素 ・香料の種類、調合香料				
	12	1		期末試験解説			2学期の学びが習得できたかを試験を通して知り、弱点克服の意識を身に付ける	
3 学期	1	3	香粧品の成り立ち ・製品を安定させる配合原料	・防腐殺菌剤 ・酸化防止剤 ・金属イオン封鎖材・緩衝液			製品を安定させる成分や配合成分の必要性について知る。	
	2	4	香粧品の成り立ち ・機能性配合原料 雑貨原料 期末試験解説	・保湿剤 ・紫外線吸収剤 ・収れん剤 ・ビタミン 期末試験解説			3学期の学びが習得できたかを試験を通して知り、香粧品の成り立ちを理解し、2年次の学習へ繋げる。	
計		30						

令和7年度 授業計画

教科課目		香粧品化学	学年	2	授業時数	30(2年次30)	担当者	石山 ふみ
実務経験の有無		有	授業方法	講義	単位数	2		
授業目標		美容の業務に必要な基本的な香粧品の知識(成分、作用機序、注意事項)を習得する。 香粧品と化学、化学の基本原理を絡めて理解を深める。 美容の業務に携わってからも、さらに高度な学習を継続的に続けられるよう楽しい化学にする。						
授業内容		○パワーポイントにて教科書内容を補足説明 ○特に大事な部分は教科書や資料にマーカーをつけるなり、ノートに書き写す ○教科書、ワークブック、配布資料を活用し、小テストで理解度を確認 ○常に自分の使用している香粧品を頭に思い浮かべ、使用目的、成分、作用原理、使用上の注意点を習得する						
成績評価		各学期末テスト 20問出題 100点満点中70点に満たない場合は再試験10問行う。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1 学期	4	3	第2章 メイクアップ製品	1節 メイクアップ製品の種類と剤形 2節 ベースメイクアップ香粧品 3節 ポイントメイクアップ香粧品 4節 アイメイクアップ香粧品			1年時に学習した香粧品を構成する原料と製品を結びつける 身の回りの香粧品を化学的な物質に置き換えられる	
	5	4	第2章 メイクアップ製品 第3章 ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスキンケア製品	5節 まつ毛ケア製品 6節 ネイルメイクアップ製品 7節 ネイルケア製品 1節 ヘアカレンジング用香粧品 2節 ヘアコンディショニング用香粧品 3節 ヘアスタイリング剤			1年時に学習した香粧品を構成する原料と製品を結びつける 身の回りの香粧品を化学的な物質に置き換えられる	
	6	4	第3章 ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスキンケア製品	4節 パーマ剤			パーマ剤の原理、応用が習得できたかを確認する 構成成分を暗記する	
	7	1		期末試験解説			パーマ剤の学びが習得できたかを試験を通して知り、弱点克服につなげる	
	9	4	第3章 ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスキンケア製品	5節 ヘアカラー製品 6節 スカルプケア製品			ヘアカラー剤の原理、応用が習得できたかを確認する 構成成分を暗記する	
	10	5	ワークブック	総復習			国家試験に向け、やる気のスイッチを入れる	
	11	3	ワークブック 国家試験対策	総復習 過去問の解答合わせ			国家試験に向け、やる気のスイッチを入れる	
	12	1		期末試験解説			パーマ剤、ヘアカラー剤の学びが習得できたかを試験を通して知り、弱点克服につなげる	
3 学期	1	4	国家試験対策	過去問の解答合わせ			国家試験に向け、弱点を知り克服する	
	2	1	国家試験対策	過去問の解答合わせ 卒業試験 卒業試験解説			国家試験に向け、弱点を知り克服する	
計		30						

授業計画

教科課目	文化論	学年	1	授業時数	27(2年次33)	担当者	小林 さとみ
実務経験	有	授業方法	講義	単位数	2		
授業目標	風俗と時代背景とのつながりを読み解くことで、流行のメカニズムを知り、時代のヘアスタイル、メイク、ファッションとの関わりを知る						
授業内容	さまざまな髪型、化粧、服装の移り変わりを学ぶ						
成績評価	目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。なお国家試験を目指すため70点以上を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容		ねらい・目標	
1学期	4	2	・理容・美容の語源(DVD) ・古代エジプト	・理容と美容とは何か ・髪型、化粧、服装		・理容と美容の違いを知る ・当時の人たちのファッションを知る	
	5	4	・古代ギリシア・ローマ ・古代ゲルマン ・中世ヨーロッパ ・近世16世紀・17世紀	・髪型、化粧、服装		・華やかなファッション、現代に通じる洋服の典型的なスタイルができた事を知る	
	6	3	・近世17世紀・18世紀・19世紀			・貴族やブルジョアのファッション洋服の歴史の中でもバラエティに富んだデザインを知る	
	7	1		期末試験解説		一学期の学びが習得できたかを試験を通してしり、弱点克服の意識を身に付けさせる	
2学期	8	1	・現代1910～1920年代	・髪型、化粧、服装		・モダンな女性ファッションを知る	
	9	3	・現代1930～1950年代			・映画や舞台が人々の憧れの的となり、映画俳優に影響されるスタイルを知る	
	10	4	・現代1960～1980年代			・アバンギャルドやエスニックテイストがファッションに反映され、多様化する若者文化とヘアスタイルの変化を知る	
	11	3	・現代1980～2010年代			・既製服の拡大と日本人デザイナーの活躍を知る	
	12	1		期末試験解説		二学期の学びが習得できたかを試験を通してしり、弱点克服の意識を身に付けさせる	
3学期	1	2	礼装の種類 ・和装	・花嫁の礼装 ・女性の礼装 ・男性の礼装		・着物の礼装か準礼装かを考え、目的、場所、季節に合った生地などを知る	
	2	3	・洋装	・女性の礼装 ・男性の礼装 期末試験の解説		・ドレスコードの種類と時間、場所、状況に合った服装・昼と夜の服装の違いを知る	
計		27					

授業計画

教科課目	文化論	学年	2	授業時数	33 (1年次27)	担当者	五十嵐 静香
実務経験の有無	有	授業方法	講義	単位数	2		
授業目標	日本の美容業の歴史・ファッション文化を学び、国家試験に合格する知識を習得させる。						
授業内容	日本の美容業の歴史・ファッション文化を学び、国家試験に合格する知識を習得させる。						
成績評価	目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容		ねらい・目標	
1 学期	4	3	第2章 日本の理容業・美容業の歴史	第1節 理容業・美容業の登場 第2節 江戸の理容業・美容業 第3節 近代の理容業・美容業 第4節 現代の理容業・美容業		第 理容業・美容業の成り立ちを知る	
	5	5	第3章 ファッション文化史	第1節 縄文・弥生・古墳時代 第2節 古代(飛鳥・奈良・平安時代) 第3節 中世(平安時代末期・鎌倉・戦国時代)		縄文時代から戦国時代までの、髪型、化粧、服装の流れを知る	
	6	3	第3章 ファッション文化史	第4節 近世(戦国時代末期・安土桃山時代) 第5節 近世(江戸時代)		戦国時代から江戸時代までの、髪型、化粧、服装の流れを知る	
	7	2	第3章 ファッション文化史	期末試験解答・解説 第6節 近世(明治時代)		縄文時代から江戸時代までの、髪型、化粧、服装の確認	
2 学期	8	1	第3章 ファッション文化史	第6節 近世(明治時代)		明治時代の、髪型、化粧、服装を知る	
	9	3	第3章 ファッション文化史	第7節 近世(大正時代) 第8節 近世(昭和20年まで)		大正時代から戦前までの、髪型、化粧、服装を知る	
	10	5	第3章 ファッション文化史	第9節 現代(1945年～1950年代) 第10節 現代(1960年代～1970年代)		1945年(戦後)から1970年代までの、髪型、化粧、服装を知る	
	11	4	第3章 ファッション文化史	第11節 現代(1980年代～1990年代) 第12節 現代(2000年代～2010年代)		1980年代から2010年代までの、髪型、化粧、服装を知る	
	12	1	第3章 ファッション文化史	期末試験解答・解説		明治時代以降の髪型・化粧・服装の確認	
3 学期	1	4	国家試験対策	第6節 明治時代～第12節2010年代までの復習 国家試験対策 模擬試験1・2 国家試験対策 過去問 1		国家試験範囲の理解 合格ラインまでの引き上げ	
	2	2	国家試験対策	国家試験対策 過去問 2 卒業試験解答・解説		国家試験範囲の理解 合格ラインまでの引き上げ	
計		33					

授業計画

教科課目		美容理論	学年	1	授業時数	50 (2年次100)	担当者	新田哲也 船山愛美 土屋浩美
実務経験の有無		有	授業方法	講義	単位数	5		
授業目標		実務経験を生かし、教科書より掘り下げた講義を行い、サロンでの仕事を理解させる。また、国家試験に合格できる知識を習得させる。						
授業内容		サロンでの技術に役立つよう理論の大切さを伝える。技術でつまずいたときには理論に戻り再確認ができるようにする。国家試験を意識させ、練習問題を活用し問題に慣れさせる。						
成績評価		目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1 学期	4	5	序章	一人前と言われる技術者までの道筋 顔の名称や頭部の名称			一人前の技術者になるための 道筋を伝える。名称を覚えさせ、 授業での会話を成り立たせる。	
	5	6	美容用具	美容で使用する用具についての使用方法と、その役目			ヘアスタイルを仕上げるために 必要な用具を、迷わず使用できる ようにする	
	6	6	シャンプーイング	シャンプーの種類、毛髪や頭皮の状態に合わせたシャンプー剤の選択。シャンプー手順、マッサージ方法			お客様に接する初めての技術を 意識させ、シャンプー剤の選択 や毛髪診断、頭皮の状態を伝える。	
	7	1		期末試験解説				
2 学期	8	5	ヘアカッティング	ブラントカットとレザークットの基礎理論、引きだし方の違いによるデザインの変化、毛量調節			スライス幅、引きだし角度の重要性を伝える。また、ベーシックスタイル習得の必要性。	
	9	5	ヘアセッティング 1章～4章	パートの取り方やカールの名称。カールの方 向による仕上がりの違い。			ピンパーマやヘアセットに通じる技 術のため、毛流れやボリュームづく り、シェーピングの大切さを伝える。	
	10	4	まつ毛エクステンション	エクステンションの接着方法、衛生面、カウンセリングの必要性			衛生面の重要性、また、装着後の ビフォーアフターによる違いを 伝える。	
	11	5	着付けの理論と技術	礼装、季節に合わせた着物、着物と帯の名称、 花嫁着付けとドレスについて。			身長や体形に合わせた着付け の必要性和美しく仕上げるため の基本を伝える。	
	12	1		期末試験解説				
3 学期	1	5	エステティック	基本の心得、衛生面と皮膚、カウンセリング、マッ サージ方法について			直接人体に触れるため、心構え や身だしなみを伝える。また、技 術の手順と力加減などを伝える。	
	2	6	日本髪	日本髪の基本と完成手順、日本髪の名称、時代 背景を伝える。			伝統的なスタイルを、これからの若 者が伝えていけるよう意識すること。 また、技術に繋げていけるようする。	
	3	1		期末試験解説				
計		50						

授業計画

教科課目			美容技術理論	学年	2	授業時数	106(1年次50)	担当者	沖山 ゆき枝 小林 さとみ 三井寺 海香
実務経験の有無			有	授業方法	講義	単位数	5		
授業目標			美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせること。 美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させること。あわせて、美容器具によるの危害を防止するための使用上の注意を学ばせること。 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。						
授業内容			美容師に必要な知識を習得させる。						
成績評価			目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容				ねらい・目標	
1 学期	4	2	3章 ヘアデザイン	・美容とデザイン				美容におけるヘアデザインの造形の意義とその応用などについて学ばせること。	
	5	5	3章 ヘアデザイン 4章ヘアカッティング	・美容とデザイン ・ヘアカッティングとは ・シザーズとレザーの扱い方 ・美容刃物				基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせること	
	6	5	4章 ヘアカッティング	・ヘアカッティングの正しい姿勢 ・ブロッキング ・ヘアカッティングの基礎理論 ・ベーシックなカット技法 ・シザーズによるカット技法 ・レザーによるカット技法				〃	
	7	1		期末試験解説				1学期の学びが習得できたかを試験を通して知り、弱点克服の意識を身に付ける	
2 学期	8	1	5章 パーマネントウェービング	・パーマネントウェーブの歴史と現在				基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせること	
	9	4	5章 パーマネントウェービング	・パーマネントウェーブの理論 ・パーマ剤の分類 ・パーマ剤に関する注意事項 ・パーマネントウェーブ技術 ・縮毛矯正				〃	
	10	7	6章 ヘアセッティング 7章 ヘアカラーリング	・ヘアウエーピング ・ローラーカーリング ・ブロードライ ・アイロンセッティング ・バックコーミング ・アップスタイル ・ウィッグとヘアピース ・ヘアカラーリング概論 ・ヘアカラーの種類 ・ヘアカラーのタイプ別特徴 ・染毛のメカニズム ・色の基本 ・毛髪のレベルとアンダートーン				〃	
	11	6	7章 ヘアカラーリング	・パッチテスト(皮膚貼付試験) ・染毛剤使用時の注意事項 ・ヘアカラーリングの道具 ・酸化染毛剤(アルカリ性タイプカラー)の技術手順 ・酸性染毛料の技術手順 ・ヘアカラーリングの道具				〃	
	12	1		期末試験解説				2学期の学びが習得できたかを試験を通して知り、弱点克服の意識を身に付ける	
3 学期	1	14	まとめ	序章～12章 振り返り				国家試験合格を目指し、繰り返し復習をし試験に備える	
	2	54	まとめ	〃				〃	
	3	6	まとめ	〃				〃	
計		106							

令和7年度 授業計画

教科科目		運営管理	学年	2	授業時数	30(2年次30)	担当者	茂木友博
実務経験		無	授業方法	講義	単位数	1		
授業目標		1.経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学び理解する 2.人を雇う事の責任や働くうえで求められることを学び理解する 3.顧客を満足させられるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学び理解する						
授業内容		①経営管理について ②労務管理について ③接客について						
成績評価		目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1 学期	4	2	第1編 経営者の視点	第1章 経営とは・経営者とは 第1節 経営とは何か 第2節 経営者の責任 第3節 経営の目的 第4節 経営戦略① 第4節 経営戦略②			経営とは何か、経営や経営者のついで基本的な考え方を理解する。	
	5	4	第2編 経営者の視点	第2章 理容業・美容業の経営について 第1節 業界の概論 第2節 理容業・美容業工お取り巻く社会の変化 第3節 理容業・美容業における競争 第4節 競争の未来図 第5節 理容業・美容業の顧客 第3章 資金の管理 第1節 資金管理の重要性 第2節 収支と損益 第3節 会計の考え方 第4節 コストを管理する			美容業はどのような業界で、競争や顧客はどういった状況にあるか、経営や経営戦略を具体的に理解する。経営状況の判断で大切な資金の管理を学び、会計の重要性と損益との違いを理解する。	
	6	3	第2編 経営者の視点 第3編 顧客のために 一学期末試験対策	第3章 資金の管理 第5節 税金について 第6節 税金の申告 第1章 サービス・デザイン 第1節 サービスを考えるうえで重要なこと 第2節 サービス・デザインの基本 第3節 サービス・システム① 第4節 サービス・システム② 第5節 システムの詳細 第6節 サービスの範囲 第7節 新しいサービスをデザインしてみよう 第2章 サービス・マーケティング 第1節 理容業・美容業のマーケティング 第2節 マーケティング・リサーチ 第3節 サービスの改善 第4節 コスト 第5節 コミュニケーション 第6節 コンビニエンス 第7節 情報コミュニケーション技術の活用について 練習問題			税金の種類と性質、申告の仕方を理解する。 サービスをつくり、伝え、提供することに共通する重要なポイントについて理解する。 顧客に長く支持される店づくりを目指してマーケティングの考え方を理解する。	
	7	2	一学期末試験解説 第3編 顧客のために	試験問題解説 第3章 サービスにおける人の役割 第1節 接客についての理解 第2節 良い接客のための準備 第3節 接客の要点			1学期の学びの習得度を知り、苦手分野の克服、国家試験に対する意識付けを継続して行う	
2 学期	8	1	第3編 顧客のために	第3章 サービスにおける人の役割 第4節 接客の実践(コア) 第5節 接客の実践(周辺) 第6節 接客の実践(オプション)			サービスの中核をなす技術の提供、サービスの実現、サービスについて具体的に理解する	
	9	3	第3編 顧客のために 第2編 人という資源 従業員としての視点	第3章 サービスにおける人の役割 第7節 接客におけるトラブルと対応 第8節 接客で発生が予想される問題 第9節 問題を深刻化させないための対策・対処 第1章 人という資源 第1節 人という資源とは 第2節 人の能力を高める 第3節 人をやる気にさせるために 第4節 給与			サービスの中核をなす技術の提供、サービスの実現、サービスについて具体的に理解する 人を雇うことの責任や働く上で求められることを学ぶ	
	10	4	第2編 人という資源 従業員としての視点	第1章 人という資源 第5節 待遇・福利厚生 第6節 労働者の権利 第2章 従業員としての視点から 第1節 社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任 第2節 社会保険①～公的年金～ 第3節 社会保険②～医療保険～ 第4節 社会保険③～労働保険～			人を雇うことの責任や働く上で求められることを学ぶ 経営者・従業員それぞれの立場について求められることを理解する 社会保険制度について理解する	
	11	4	第3編 人という資源 従業員としての視点 二学期末試験対策	第2章 従業員としての視点から 第5節 キャリアプランの重要性 第6節 仕事をするうえで考えるべきこと 第3章 健康・安全な職場環境の実現 第1節 健康管理の基礎 第2節 理容・美容の仕事と健康 第3節 理容業・美容業に特徴的な健康課題 第4節 理容・美容の作業環境に関する健康問題 練習問題			経営者・従業員それぞれの立場について求められることを理解する 健康管理の観点から、人にかかわる問題を見ていく	
	12	1	二学期末試験解説	試験問題解説			2学期の学びの習得度を知り、苦手分野の克服、国家試験に対する意識付けを継続して行う	
3 学期	1	3	国家試験対策全般	国家試験対策 全般			国家試験に出題されるポイントをまとめ、理解する	
	2	2	国家試験対策全般 三学期末試験対策	国家試験対策 全般 試験問題開設			国家試験に出題されるポイントをまとめ、理解する 3学期の学びの習得度を知り、苦手分野を克服する	
計		30						

授業計画

教科課目			実習	学年	1	授業時数	525	担当者 五十嵐静香 新田哲也 船山愛美 土屋浩美
実務経験の有無			有	授業方法	実習	単位数	900 (2年次475)	
授業目標			美容の基本をしっかり身につけ美容室に於いて即戦力として施術ができる基礎作りをする。 2年次の国家試験に向けての課題の習得。					
授業内容			美容師として勤務した経験を活かし、おきやくさまとのコミュニケーションとお客様が満足できる技術の提供及び国家試験技術					
成績評価			目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、在学中確実に国家試験取得を目指す為、70点を目標ラインとし、再試験を行う。					
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標	
1 学期	4	50	道具の使い方 ワインディング 編み込み シャンプー	ウィッグの手入れと使用方法 センターブロッキング 三つ編み・編み込み・ツイスト・フィッシュボーン リアシャンプー			美容用具の使用法 毛髪の扱い方 人頭の扱い方	
	5	53	ワインディング シャンプー まとめ髪 メイク	国試用ブロッキング・アップ&ダウンテクニック リアシャンプー 三つ編み・編み込みを使ったまとめ髪 ベーシックメイク			国試用WDの理解 シャンプーの手順を知る ロングヘアのまとめ方と、ピンの使い方 ナチュラルメイクテクニックの理解	
	6	44	ワインディング メイク ネイル	国試用タイム巻き メイク検定3級対策 ジェル初級対策			国試用WDを正確に速く巻く メイク検定合格に向けて ネイルケアとジェルアートの理解	
	7	60	ワインディング メイク ネイル	国試用タイム巻き ジェル初級対策			国試用WDを正確に速く巻く(50分) ネイルケアとジェルアートの理解	
2 学期	8	12	ワインディング	国試用タイム巻き			国試用WDを正確に速く巻く(40分)	
	9	41	ワインディング カット シャンプー	国試用タイム巻き ワンレングス・グラデーションカット サイドシャンプー			国試用WDを正確に速く巻く(30分) シザーの扱い方 サイドシャンプーの身体の位置	
	10	59	ワインディング カット オールウエーブ	国試用タイム巻き オフベース巻き(パーマ) セიმレングスカット 国試用カール			AWウィッグにパーマをかける 頭皮に対して90度に引き出すカット 技法。 国試用カールのテクニッ クを理解する	
	11	55	ワインディング オールウエーブ 着付け	国試用タイム巻き 国試用カール 黒留袖着付け			国試用WDを正確に速く巻く(25分) 国試用カールのテクニクを理解す る。和装用具の理解と着付けの理解	
	12	32	オールウエーブ 着付け	国試用カール 黒留袖着付け 紋付羽織袴着付け			国試用カールのテクニクを理解す る。女性着物着付けの理解と男性 着物の着付け方	
3 学期	1	58	ワインディング オールウエーブ エステ	国試用タイム巻き 国試用カール フェイシャルケア(ハンド・機械)			国試用WDを正確に速く巻く(25分) 国試用カールを正確に早く作成する クレンジング・マッサージのテクニク の理解	
	2	41	ワインディング オールウエーブ	国試用タイム巻き 国試用カール			国試用WDを正確に速く巻く(20分) 国試用カールを正確に早く作成する	
	3	20	ワインディング	国試用タイム巻き			国試用WDを正確に速く巻く(20分)	
計		525						

授業計画

教科課目			実習	学年	2	授業時数	369 (1年次531)	担当者	小林 さとみ 安達純子 沖山ゆき枝 茂木友博 三井寺海香
実務経験の有無			有	授業方法	実習	単位数	30		
授業目標			・国家試験課題に関しては合格基準に達するようにする。 ・シャンプー等は相手の気持ちを考えられるような施術を目指す						
授業内容			・国家試験課題は解らないところを無くす ・実務的な事例を含めた実習						
成績評価			・目標達成状況を学期ごと試験をし、100点満点で点数化し60点を合格、 70点を目標ラインとし、再試験を行う						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標		
1 学期	4	16	・ワインディング ・シャンプー＆ブロー	・国家試験課題 ワインディング ロッド配分の確認 タイム 20分 ・相モデルでのシャンプー リアシャンプー、サイドシャンプーの技術習得 ・相モデルでのブロー モデルの希望に合ったスタイルに仕上げる			・国家試験課題は合格基準に達するように繰り返し取り組む ・相モデルのシャンプーサイド シャンプー、リアシャンプーの手 順を覚え、モデルの立場に立っ た対応を心掛ける		
	5	39							
	6	45							
	7	17							
2 学期	8	9	・オールウェーブ・セッ ティング ・カッティング ・シャンプーイング	・国家試験課題オールウェーブ7段構成 ・フィンガーウェーブ ・スカルプチュアカール ・リフトカール ・メイポールカール ・クロッキノールカール ・国家試験課題レイヤーカット ・相モデルでのシャンプー＆ブロー			・国家試験課題7段構成の配分 を理解し時間内に完成する ・国家試験課題カットは手順を覚 える ・モデルの髪質に応じたブロー		
	9	24							
	10	47							
	11	28							
	12	58							
3 学期	1	68	・国家試験課題	・国家試験課題 第一課題(レイヤーカット) 第二課題(ワインディングorオールウェーブ7段構 成)			・国家試験課題の合格基準に達 するために取り組み、衛生実技 試験に対応した訓練をする		
	2	18							
計		369							

令和7年度 授業計画

教科課目			芸術	学年	1	授業時数	32	担当者	小野 隆弘
実務経験の有無			有	授業方法	講義・演習	単位数	2		
授業目標			日常生活の中で、色彩の持つ様々な特性を目的に応じて活用できるようにし、色彩検定3級の合格を目指す。 また、顔の特徴をつかみ人物画の基本を学ぶ。						
授業内容			テキストを使いながら色彩の様々な特性を指導する。 色彩の基本を学び検定試験にもつながる知識を身に付ける。 自画像のデザインを通し、顔、髪を描く。						
成績評価			履修状況、授業への取り組み、自画像の作品を総合的に判断し100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標		
1 学期	4	3	色を分類する	オリエンテーション, 色の三属性 純色・清色・中間色, 色立体の構造			色の基本や特徴を知り、色彩検定 取得につながる知識を身に付け る。		
	5	3	色の名前	色の三属性を使った色の表示, トーン分類 トーン記号による色の表示, 言葉による色の表示, 慣用色名					
	6	4	色の光・混色	光・色の正体, 光が起こす現象 眼のしくみ, 構造と働き, 網膜 色の視覚的效果や現象, 照明と色の見え方					
	7	1							
2 学期	8	1	色の感じ方	様々な色の心理的な効果			色が日常生活に与える影響を考 え、美容の仕事にもつながることを 意識して学ぶ。 検定の対策を通して、色彩につい て深く知る。		
	9	5	色彩と構成	トーンで考える配色					
	10	7	色彩と生活	アクセント, セパレーション, グラデーション, リズ ム, ファッションアイテム, カラーコーディネート 生活環境を理解する色彩					
	11	2	色彩検定に向けて	過去の問題を解く, 質問					
3 学期	1	3	デッサン	自画像の描き方 目、輪郭、各パーツ、全体 形をとる、影をつれる、仕上げ			各パーツの書き方をマスターし、顔 全体のバランスを取り描けるよう になる。		
	2	3							
計		32							

令和7年度 授業計画

教科科目			芸術	学年	2	授業時数	14	担当者	小野 隆弘
実務経験の有無			有	授業方法	講義・演習	単位数	2		
授業目標			一人一人の絵画表現に対する苦手意識を克服し、人間の頭部やヘアスタイルの美しさを考えて鉛筆表現できるようにする。						
授業内容			人間の頭部を描くことで美的直感力や観察力を付ける。 自分の顔や友達の顔をよく観察して、特徴や美しさを考えながら鉛筆で表現する。						
成績評価			履修状況、授業への取り組み、自画像の作品を総合的に判断し100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。						
学期	月	時数	項目	内容				ねらい・目標	
1 学期	5	6	ヘアーイラスト	・オリエンテーション、テーマを考え構想を練る ・相モデルでの写実と自分の顔の写実 ・被写体をよく観察し、特徴をつかむ。				デッサンをすることにより、顔や髪 の毛の特徴を知り、着実に描ける ようになる。	
	6	6							
	7	2							
計		14							

令和7年度 授業計画

教科科目			芸術	学年	1	授業時数	6	担当者	福田 真
実務経験の有無			有	授業方法	演習	単位数	2		
授業目標			写真撮影の基本と考え方や写真を使った自己表現を学ぶ						
授業内容			・写真撮影の基本的な技術を習得する。 ・被写体(モデル)との関係性の構築。 ・SNS運用を学ぶ。						
成績評価			履修状況、授業への取り組み、フォトの作品を総合的に判断し100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標		
1 学期	5	4	写真撮影の基本	写真撮影の基本と考え方を知り、SNS上での写真の役割を理解する。			写真を使って自分を表現することを知り、写真を使った自己表現を学ぶ。		
	6	2							
計		6							

教科科目			芸術	学年	1	授業時数	6	担当者	福田 真
実務経験の有無			有	授業方法	演習	単位数	2		
授業目標			写真撮影の基本と考え方や写真を使った自己表現を学ぶ						
授業内容			・写真撮影の基本的な技術を習得する。 ・被写体(モデル)との関係性の構築。 ・SNS運用を学ぶ。						
成績評価			履修状況、授業への取り組み、フォトの作品を総合的に判断し100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。						
学期	月	時数	項目	内容			ねらい・目標		
2 学期	9	4	写真撮影の応用	モデルをより引き立たせるシチュエーションでの撮影をデモンストレーションを通じて学び、学生同士ペアを組み実演する。			写真を使って自分を表現することを知り、写真を使った自己表現を学ぶ。		
	10	2		自他の作品を評価する。					
計		6							

令和7年度 授業計画

教科科目			芸術	学年	2	授業時数	2	担当者	根岸玲那
実務経験の有無			有	授業方法	演習	単位数	2		
授業目標			山形美容専門学校の校歌を覚え、大きな声で歌う。						
授業内容			音楽での海外留学や長年ピアノの教室で色んな生徒に教えてきた経験を活かし、ジャズやクラシック等幅広いジャンルの音楽を伝え、学生の感性を養う。						
学期	月	時数	項目		内容			ねらい・目標	
1 学期	4	2	歌唱		校歌、パート分け ジャズやクラシック等幅広いジャンルの音楽を鑑賞			校歌を覚え、歌えるようになる	
計		2							

教科科目			芸術	学年	2	授業時数	2	担当者	根岸玲那
実務経験の有無			有	授業方法	演習	単位数	2		
授業目標			山形美容専門学校の校歌を覚え、大きな声で歌う。						
授業内容			音楽での海外留学や長年ピアノの教室で色んな生徒に教えてきた経験を活かし、ジャズやクラシック等幅広いジャンルの音楽を伝え、学生の感性を養う。						
学期	月	時数	項目		内容			ねらい・目標	
3 学期	2	2	歌唱		校歌 パートに分かれての合唱 広いジャンルの音楽を鑑賞			卒業式での校歌や卒業の歌を自信 をもって歌う	
計		2							

授業計画

教科科目	社会福祉	学年	1	授業時数	14	担当者	相澤孝志
実務経験	無	授業方法	講義	単位数	2		
授業目標	美容を通じて社会福祉の現状と問題点を理解する。						
授業内容	社会福祉施設での勤務経験や、知識を活かし美容との関係性やあり方を伝える。						
学期	月	時数	項目	内容		ねらい・目標	
1 学期	5	4	はじめに 現代社会と社会福祉	なぜ社会福祉を学ぶのか。社会福祉の歴史 社会福祉を学ぶ意義・福祉美容の紹介		福祉の事を知り、美容師から見た 社会福祉を理解する。	
	7	2	医療・所得保障	私達の生活問題・身体障害について		ライフプランを理解する。	
2 学期	8	2	障害者福祉	今までの枠に当てはまらない障害		発達障害について理解する。	
	9	4	障害者福祉 高齢者福祉	こころの病 高齢者の病気・車椅子体験		精神障害、高齢者について 理解する。	
	10	2	高齢者福祉・社会福祉	認知症とは・これからの生き方		これから生きていくための理解を深める。	
計	14						

授業計画

教科科目	社会福祉(手話)	学年	1	授業時数	12	担当者	齋藤 聡子
実務経験	有	授業方法	講義・演習	単位数	2		
授業目標	聴覚障害者(耳の聞こえない人・聞こえにくい人)とのコミュニケーションの方法を理解し、美容室内での簡単な会話ができるようになる						
授業内容	厚生労働大臣認定の手話通訳士である講師が聴覚に障害のある方とのコミュニケーションの方法の多様性を指導する						
学期	月	時数	項目	内容		ねらい・目標	
2 学 期	9	5	手話を知る 手話の基本	聴覚障害者(耳の聞こえない人・聞こえにくい人)とのコミュニケーションの方法 自己紹介(指文字、手話) 数字(お金について)		聴覚障害者とのコミュニケーションの一つとして手話 ^o があることを理解する	
	10	5	手話の実践	耳の聞こえの仕組み・曜日・時間経過・色 挨拶・食べ物・スポーツ 生年月日・職業 手話コーラス		美容室に聴覚障害者が来店した際のイメージをし、実際に通じるか試してみることににより、コミュニケーションの難しさを知る	
	11	2		美容室での会話 美容室での会話(実践)			
計	12						

令和7年度 授業計画

教科科目			社会福祉 カウンセリング	学年	2	授業時数	12	担当者	丸山芳浩
実務経験の有無			有	授業方法	講義	単位数	1		
授業目標			自分のセルフイメージを明確にし、その自分を受け入れ、養っていく。						
授業内容			・交流分析の心理テストを通して、自分自身を客観的に知る。 ・セルフイメージを明確にし、その自分を受け入れる方法を学ぶ。 ・自分の長所を発見し、セルフイメージを育てる実習を行う。						
成績評価			試験とレポート提出、その他授業態度等を加味し、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。						
学期	月	時数	項目	内容				ねらい・目標	
1 学期	4	3	交流分析の理論	・交流分析のPACの理解 ・エゴグラムの心理テスト				交流分析の基礎的理論を理解し、心理テストを通して自分を客観的に知る。	
	5	3	交流分析の応用	・対人関係における4つの基本的構え ・禁止令とその解除				エゴグラムを通して得た知識を自分自身に適用し、自分を受け入れる。	
	6	4	セルフリフレーミングとストーリー	・セルフリフレーミングの理論と実習。 ・ストロークによって自分のセルフイメージを育てる。				短所は長所でもあることを理解し、長所として育てる方法を学ぶ。	
	7	2	自己表現トレーニング	・自己表現と私メッセージ				自分の本当の気持ちを知り、それを相手に伝える表現法を学ぶ。	

教科科目			社会福祉 カウンセリング	学年	1	授業時数	13	担当者	丸山芳浩
実務経験の有無			有	授業方法	講義	単位数	1		
授業目標			カウンセリングの技法を通して人間関係作りを学ぶ。						
授業内容			・カウンセリングの4つの基本技法を学ぶ。 ・ロールプレイによって技法を実際に使う実習を行う。						
成績評価			試験とレポート提出、その他授業態度等を加味し、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。						
学期	月	時数	項目	内容				ねらい・目標	
2 学期	9	4	受容とエコー	・相手のありのままを受け入れ、傾聴する ・相手の言葉を繰り返し、鏡となって写し出す。				カウンセリングの基礎知識とリレーション作りの方向性を示す。	
	10	4	エコーと支持、ロールプレイ	・相手の言葉を肯定的に返す。 ・言い訳を言ってあげる、ほめる技法				エコーと支持の技法を学び、ロールプレイによって実際に体験し、現場で使えるようにします。	
	11	3	質問とロールプレイ	・相手が聞いて欲しいことを質問するやり方。				カウンセリングで言う「質問」を学び、それを使って、よりリレーションを深め、相手のニーズを探るやり方を学びます。	
	12	2	ヘアカウンセリングの実際	・GROW(成長)をキーワードとしたカウンセリング。 ・総合的にまとめた演習				4つの技法を使い、実際のヘアカウンセリングを行えるようにします。	
計		13							

授業計画

教科科目			総合技術Ⅰ ヘアデザインコース	学年	2	授業時数	150	担当者	茂木友博 三井寺海香
実務経験の有無			有	授業方法	実習	単位数	5		
授業目標			【前・後期 共通】 ①作品撮りを通してクリエイティブな発想や表現力を身につける。 ②特別講師より美容業界のトレンドや流行の技術を学び、常に最新の情報を知る。 ③美容師として大事な心構えや仕事への取り組み方を知る。メンタルケアの方法やコミュニケーション力を養う。 【前期】 ①ヘアカットtingの要領を理解すると同時に、実践トレーニングを通して基礎技術を身につける。 【後期】 ①より実践的なスタイルをイメージし、形にする力を身につける。 ②相モデルの実習を通し、お客様の立場になって施術できる力を身につける。						
授業内容			・様々なスタイルを作っていくために欠かせない、ベーシックカットの基礎知識と基礎技術を学ぶ。 ・デザインカット、カラーリングやパーマネットウェーブ等を学び、より実践的な応用技術を学ぶ。 ・定期的な撮影(作品撮り)の授業を継続して行う。 ・特別講師によるセミナーを行い、美容業界の最新のトレンド技術や情報を取り入れる。						
成績評価			・目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。						
学期	月	時数	項目	内容				ねらい・目標	
1 学期	5	24	①カットベーシック ②その他	・ワンレングス ・トレンドセミナー ・撮影				ワンレングスカットの習得	
	6	20	①カットベーシック ②その他	・グラデーション ・メンズカット ・ゲストサロンセミナー ・撮影				グラデーションカットの習得	
	7	20	①カットベーシック ②その他	・セიმレングス ・メンズカット ・ゲストサロンセミナー ・撮影				セიმレングスカットの習得	
2 学期	8	8	①カット応用 ②その他	・レディースコピースタイル				レディースカットとカラーリングの習得	
	9	40	①カット応用 ②その他	・レディースコピースタイル ・メンズパーマ ・ゲストサロンセミナー ・撮影				レディースカットとカラーリングの習得 メンズパーマの習得	
	10	38	①カット応用 ②その他	・クリエイティブスタイル ・ゲストサロンセミナー ・撮影				クリエイティブな作品に挑戦することで創造力を養う	
計		150							

授業計画

教科科目			総合技術Ⅰ ネイルクリエイト コース	学年	2	授業時数	164	担当者	安達純子
実務経験の有無			有	授業方法	実習	単位数	3		
授業目標			探究授業の中で自ら見つけた課題について基礎的な知識・技能と、お客様のニーズに合わせた思考力・判断力・表現力を総合的に活用しながら、主体的・協働的に学ぶ						
授業内容			JNAジェル検定中級、JNAジェル検定上級、JNECネイル検定2級、サロンスタイルデザインアート働いたときに活かせる技術と知識を身につける。						
成績評価			目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。						
学期	月	時数	項目	内容				ねらい・目標	
1 学期	5	24	ジェル検定中級対策	ネイルケア /ジェルネイル				ファイル、メタルプッシャー、キューティクルニッパーの安全な使用法を学ぶ。ワンカラー、グラデーション、フレンチテクニックを学ぶ	
	6	20	ジェル検定中級対策	アーティフィシャルネイル				ジェルネイルスカルプのフォーム装着、スタイリング、オフの技術を学ぶ	
	7	20	ジェル検定中級対策	ジェル検定中級練習				ネイルケアとジェルネイルを施術するためにプロとしてサロンワークに必要な専門知識と技術の修得	
2 学期	8	8	ジェル検定上級	ジェルチップオーバーレイ /ジェルアート				ジェルチップオーバーレイ装着、スタイリング、オフの技術を学ぶ	
	9	40	ジェル検定上級	ジェルネイルスカルプ ジェル検定上級練習				ジェルネイルスカルプのフォーム装着、スタイリング、オフの技術を学ぶ ジェルネイルのスペシャリストとして必要とされる総合的知識と技術の修得	
	10	38	ネイル検定2級	ネイルケア/チップラップ カラーリング				チップラップ装着の技術を学ぶ サロンワークに必要な専門知識と技術の修得	
計		150							

令和7年度 授業計画

教科科目			総合技術Ⅰ ブライダルビュー ティーコース	学年	2	授業時数	150	担当者	小林さとみ
実務経験の有無			有	授業方法	実習	単位数	5		
授業目標			エステティックの基礎を学び『フェイシャルエステティシャン』のディプロマ取得を目指す 着付けやブライダルの基礎を身に付け、トータルでのスタイル作りをする。						
授業内容			エステ、着付けの実習等を通し、ブライダルに必要な知識を身に着ける。						
成績評価			目標達成状況を100点満点で点数化し、60点以上を合格とする。 なお、『フェイシャルエステティック認定』は80点を合格ラインとし、再試験を行う。						
学期	月	時数	項目		内容			ねらい・目標	
1 学期	5	24	・エステ		・エステティック理論 ・クレンジング ・リンパマッ サージ			エステティックの基礎知識を 学びフェイシャルエステティ シャンのデプロマを目指す	
	6	20	・エステ ・アロマ		・エステティック理論 ・クレンジング ・リンパマッ サージ ・栄養導入・アロマオイル作成				
	7	20	・エステ ・フットケア ・ハンドケア		・エステティック理論 ・クレンジング ・リンパマッ サージ ・栄養導入・フットバス、マッサー ジ・パラフィンパック ・認定試験				
2 学期	8	8	・着付け		・浴衣			着付けやブライダルの基礎 知識を身につける	
	9	40	・着付け ・ヘアメイク		・留袖・振袖・袴着付け(男・女)・帯結び ・ヘアアレンジ、メイク				
	10	38	・着付け ・ブライダル ・フラワーアレンジメント		・振袖 ・ブライダル展示見学 ・ウエディングドレス、撮影・ブライダルブーケ制作 など				
計		150							

授業計画

教科課目	総合技術Ⅱ	学年	1	授業時数	215 (2年次115)	担当者 五十嵐静香 新田哲也 舩山愛美 土屋浩美
実務経験	有	授業方法	実習	単位数	11	
授業目標	トータルの技術を学び、即戦力として施術できる基礎づくり					
授業内容	トータル美容で美容師として経験した技術を生かし、総合的な授業の実践					
成績評価	目標達成状況を学期ごとに試験をし、100点満点で点数化する。					
学期	月	時数	項目	内容		ねらい・目標
1 学期	5	34	メイク ネイル	メイク3級対策 ジェルネイル3級対策		メイク3級取得 ジェルネイル3級取得
	6	30	メイク ネイル	メイク3級対策 ジェルネイル3級対策		メイク3級取得 ジェルネイル3級取得
2 学期	9	21	ヘアカラー	カラー理論 ファッションカラー グレイカラー ハイライト 毛束による調色変		毛髪理論 ヘアカラーの仕組みを知る 刷毛の使い方 ヘアカラーの色選びを知る
	10	24	ネイル	ネイル3級対策		ネイル3級取得
	11	28	アイラッシュ 着付け	用具の使い方・1本のつけ方 留袖着付け		コース選択に向けてのまつエクの 知識と技術を知る 女性着物(留袖)着付け技術を習 得する
	12	32	アイラッシュ 着付け	用具の使い方・1本のつけ方 留袖着付け・紋付羽織袴着付け		コース選択に向けてのまつエクの 知識と技術を知る 女性着物(留袖)と男性着物着付 け技術を習得する
3 学期	1	16	エステ	フェイシャルエステ クレンジング・マッサージ ハンド＆機械		フェイシャルエステ認定試験 に向けての技術を習得する
	2	30	コース	アイラッシュコース ネイルコース メンズスタイルコース		ABEまつ毛エクステンション認定 取得 JNAジェルネイル技能検定 中級取得 メンズカット・ メンズセット・ヘアカラー
計		215				